

- 実施主体 小森原野組合（西原村）
- 実施場所 西原村 小森原野内
- 実施期間 平成 27 年 8 月 11 日



### ◇背景・ねらい

私たちの牧野は、西原村の北東の外輪に位置し、あか牛等の放牧並びに村内外の方たちの癒しの場として利用・管理されている。現在、私たちの牧野は、周年放牧や採草地として利用されており、毎年3月には組合員（非農家も含む）による原野火入れを実施し、草原の維持に努めている。

今回、未来を担う子供達や、普段牧野に足を運ぶことのない地域の方々と草原植物の植生調査や環境学習活動を行うことにより、草原への関心をもってもらい、草原の維持・管理についての理解を深めて、草原の生態系保全活動にもつなげていきたいと考えている。

### ◆実施概要

#### ○事前学習

- ・地域の子供たちへ事前に植物図鑑等を実施日の8/11まで配布

#### ○活動内容

- ・小中学生7名と保護者5名が参加
  - ①（午前）生物多様性評価手法マニュアルを活用し、植生調査を実施
  - ②（昼食）小森原野内にて参加者全員で交流会
  - ③（午後）小森原野内で草原探索7名
- ・野焼き実施地と野焼き未実施地でそれぞれ2カ所ずつ、計4カ所に植生調査枠（3m×3m）を設けて、環境省の生物多様性評価手法マニュアルに従いながら、自生している草花の種類を丹念に調査した。



### ◆実施体制

- ・牧野組合員 7名
- ・西原村役場 3名
- ・環境省九州地方環境事務所 4名
- ・熊本植物研究所（佐藤先生）

### ◆成 果

当日は約30名で実施し、うち小中学生7名、保護者5名が参加。

ゲンノショウコ、シバネコハギなどが自生しているのを確かめ、放牧牛の多さや野焼きの実施によって植生が異なることを学んだ。

### ◆実施者の感想

草原で遊ばなくなり、草花を知らない子が多い。自然に触れて守っていく大切さを体感してもらいたい。